

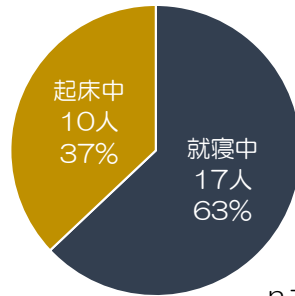
STOP! 電気火災

東京消防庁

住宅用火災警報器で早期発見

電気コード火災等による死者は不明のものを除くと、多くの方が**就寝中**に発生した火災により命を落としています。

住宅用火災警報器を**全ての居室・台所・階段**に設置し、火災を早期に発見することで、命を守りましょう。



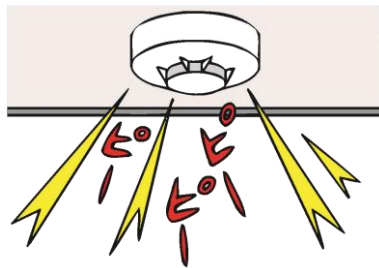
n=27
電気コード火災等による死者の状況
(不明 17 人を除く H24~H28 住宅火災)
※平成28年中の数値は、防災安全課調べの速報値です。

設置してよかった!

男性(30代)は、テーブルタップに許容量を超える過負荷使用を行っていたため、差込みプラグから出火した。住宅用火災警報器の鳴動により、隣人が火災を発見し、119番通報と消火器による初期消火を実施した。



コンセントや電気コードの周りには、燃えやすいものを置かないようにしましょう!



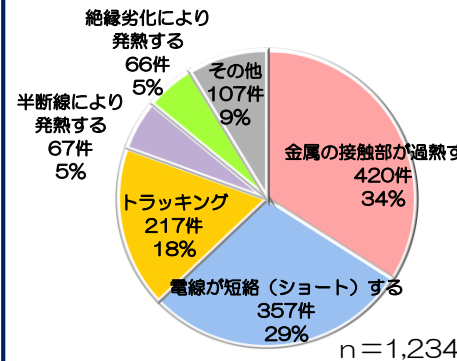
問合せ先 東京消防庁赤坂消防署予防課 電話03-3478-0119

平成29年1月発行

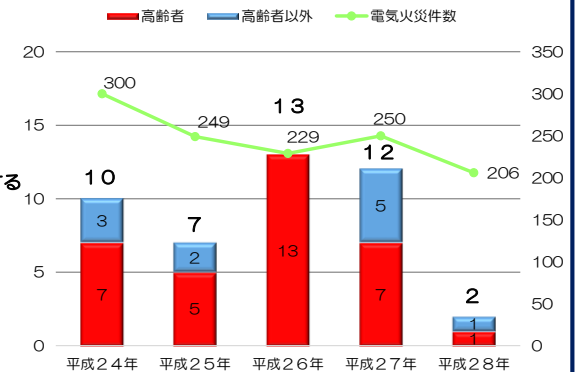
身近にひそむ火災危険

電気火災とは、電気や電気製品にかかわる火災のことをいいます。

電気火災の中でも電線の短絡・トラッキング・半断線によって起こる火災(以下「電気コード火災等」という。)は、火を使用している意識がないため、火災に気づきにくく危険です。

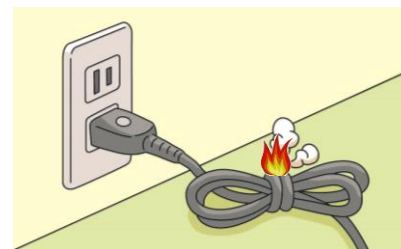


経過別の電気コード火災等発生件数
(H24~H28 住宅火災)



電気コード火災等による件数及び死者数
(H24~H28 住宅火災)

※平成28年中の数値は、防災安全課調べの速報値です。



次のページで電気火災の起こる仕組みを知って、火災を予防しよう!

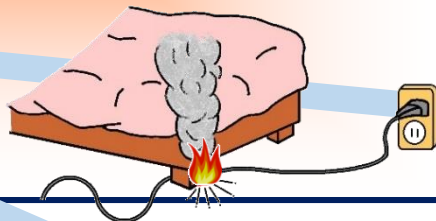
電線が短絡（ショート）・半断線する

電気コードの家具等の踏みつけ、束ねての使用、折れ曲がったままの使用は、コードの被覆の損傷や温度上昇、経年劣化による短絡（ショート）、半断線を引き起こし、火災の原因に！

電気コードを家具の下敷きにしない

束ねて使用しない

折れ曲がりに注意する



トラッキング

コンセントに差したプラグの差し刃間についたほこりが湿気を帯び小さなスパークを繰り返し、電気回路が形成され出火！



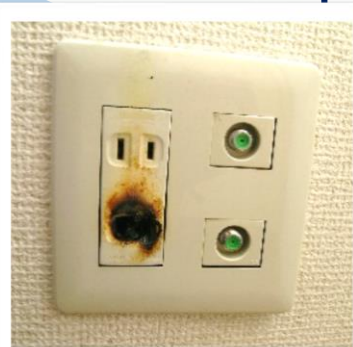
定期的に点検・清掃する

使わないプラグは抜いておく

見えにくい場所のコンセントは特に注意する

金属の接触部が過熱する

プラグがコンセントにしっかり差込まれていなかったり、プラグの差し刃が変形していたりすると、過熱して火災の原因に！



プラグはコンセントにしっかり差込む

プラグ・コンセントは変形等がないか定期的に点検する

過多の電流が流れる

タップを決められた容量以上で使用すると発熱し火災の原因に！

タップは決められた容量内で使用する

